



沖縄市における 自立支援のゴールを目指した 食支援について考える地域円卓会議

困窮世帯の自立支援のための食支援を目指した、

寄付者・企業・市民・行政・つなぎ手の参画の仕組みについて考える

実施報告書

日時： 2024年12月5日（木）15:00-17:30（受付開始14:30-）
場所： 沖縄市社会福祉センター 2階ホール（沖縄県沖縄市住吉1-14-29）
主催： 社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会
共催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
協力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成

NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】 沖縄市における自立支援のゴールを目指した食支援について考える地域円卓会議



- 日 時：2024年12月5日（木）15:00-17:30
- 場 所：沖縄市社会福祉センター 2階ホール
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記者を含む）
- 参加者数：29名（行政、NPO・市民団体等、企業等）
- 主 催：社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会
- 共 催：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

神山 義久（社会福祉法人 沖縄市社会福祉協議会 福祉総合相談係 係長）

困窮世帯の自立支援のための食支援を目指した、 寄付者・企業・市民・行政・つなぎ手の参画の仕組みについて考える

沖縄市社会福祉協議会では支援者や地域住民とともに困窮世帯の相談や支援に取り組み、制度や支援者につながるまでの間の食品や日用品の配布も行ってきました。コロナ禍、物価高騰でそのニーズは拡大し、2024年9月に開所したフードバンクセンターをその拠点として機能させていく計画ですが、困窮世帯の自立支援の全体像やステークホルダーの構図の中で、どのような役割を担えるのかを共有し、その役割を持続的に担っていくために必要な食品寄付、寄付食品の管理に伴うコスト、そこに地域住民はどのように協力できるのかななどを議論します。

センターメンバー



神山 義久
社会福祉法人
沖縄市
社会福祉協議会
福祉総合相談係
係長



内間 安研
沖縄市役所
こども相談健康課
主幹



山下 千裕
一般社団法人
くじら寺子屋
代表理事



古堅 春樹
株式会社菓正堂
常務取締役



奥平 智子
NPO 法人
フードバンク
セカンド
ハーベスト沖縄
代表理事



糸数 美樹
タレント
ミキトニー

沖繩市における
自立支援のゴールを
食支援について考える
154回目
地域円卓会議

2024.12.5(木)
15:00~17:30
@ 沖繩市社会福祉センター

困窮世帯の自立支援のための食支援を目指した
寄付者(企業・市民・行政)つなぎ手の
参画の仕組みについて考える

議題として
困窮世帯の食支援
共有
共感
<イシューレイジング>

主催 社会福祉法人 沖繩市社会福祉協議会
共催 公益財団法人みらいフード沖繩 協力 NPO法人 わくまちなか研所わく

リソースのかたよりへのアプローチ ↓ 直轄5機関関係者
<シンパシティー> 今回は20名の参加
山下千裕 沖繩市 内閣 安研
古堅 香樹 余教 美樹
福平 裕子 余教 美樹
神山義久
安谷屋

②

1. 市民の方たちからおすそ分け
2. 相談できる場所づくり
3. 市民の方へのアプローチ
4. ステックホルダー役割分担
5. 財源確保

沖繩市社協
地域福祉向上を
目的とした非営利団体

相談支援
住まい 食 生活
制度の狭間
支援につながりづらいもの
にも取り組む アウトリーチ

困窮世帯 生活福祉
現状① 資金貸付
特例貸付
コロナ禍で認知
借りる人が増えた
② フードバンク
コロナ禍で増え
その後の減少
事業ニーズあり

食品寄付の
促進方法

管理コストの
削減策
拠点が分散
も効果よく出回りが
よい

財源確保
休職資金
活用事業
2月末まで

今後
子ども食堂などにも
流れていくことが
できたら。

入
札

1か月で57件(世帯)
現在 167件
年内200件想定
想定よりも多い

前年度12件 → 今年度6件
提供する量が増加
{集まる量も増えているが}

沖繩市は工場等が
なく、物資が奪われやすい
市民に定着は始めている

回教制限は報告が
断れない。関係者
その後、相談に
つなげることも

冷凍・冷蔵OK

クリスマス
ケーキなど

相談できる
場所づくり
拠点

神山

沖縄市役所 内間さん

沖縄市 10拠点 子どもの居場所 3カ所 提供

増やしていけるよう 予算計上 している

子どもたちの活動をしています

沖縄市...居住できるエリアが 特徴 多い分、貧困世帯も多い

生活保ゴにかかっているが キツイ世帯

①所得 ②非正規雇用 ③母子家庭 ④生活保ゴ

⑤就学援助率 ⑥高校中退

沖縄県の現状とほぼ同様

14,000人 → 4,000人

十分届いているかどうか

貧困・困窮世帯

もらったものを どう届けるか → 社協と連携

物流の流れ向上

寄贈品の活用みえる化

役所に届けたものをどこに保管するか (親の持ち物は米が...)

管理棟 (待機面も含め) 見直しが必要

毎日40-50人 利用

学習支援を中心に 子どもの居場所運営 山下さん

全て無料 (10年間)

食糧支援 → 世帯支援

声があがるのが うれしかった。

毎日食事支援している (居場所内で)

根拠はまたからか?

中物資 コロナ禍でとぎれたが 声かけしたりさんぽして再開

はじめて3年

食料足りないと言われて29-ト

1か月 (20世帯 完全予約制)

食料支援事業

予約束を3つ、セリの中での コミュニティで スモールステップで 自立に向けてのサポート

LINEで お知らせ

世帯支援

よんぱー 3-ボ 「ゆくりと いいおと 言わなくても 伝わる場

子どもの居場所運営応援

「自分の地域にも なってますか?」の声から

当初公民館で やっていた孤食対策の 追加外

そこで出会った 調理師さんなどと つながっている

連携 協力者との つながり

基盤になって いるかもしれない

すしやか 華局 古堅さん

華局にいる 向けでなく、 とびだして

フードバンク セカンドハーベスト 沖縄 奥平さん

出来る人と 増やしたい 運営する人へのサポート

150団体 ↓ 120団体 理由

食品の量が不足

160トンの コロナ禍には 96トン 増加していた

経済活動がまわり だし、ロスが減った

ロスと 認知の 高まり

フードバンク 豊見城拠点も 協力を して 協者に取組組んで もう

持続可能な 仕組みづくり

管理栄養士の方の 在宅訪問時、 公共の場、などで 料理教室 「食育」を実施

どんなことができるか と思っている

コロナ後 ちかちか もっていき

料理教室

「食育」を実施

どんなことができるか と思っている

きまりが多そう ニュースで

食事も持ち出し ってきて何か したいと思っ てるって 止まってる

ひとりの 運動 しなめた

一見の匂い とい、 日々仕事中で何が できるか?

どうして 情報がとれて しまっただろう?

待合室にチラシを おいてもらうの? ビンに連絡 すればいいの?

もったいない 食品があるから いかしたい

中間支援

寄付助成金

などですすめられた

↓ フードバンク

豊見城拠点も

かまえたタイミング

運営コストが かかる (場所、LINE、 人件費、輸送費等)

→ 1,000円を 利用 できるようにスタート

サブセッション

5

なかなか情報が
伝わらない
ネットもかかる
→ コサの裏側

目につく
場所が◎

TV以外、沖縄に
あていなくてもみる
イベント
POPUP
TVCM 一部
企業) を広報と
して → 企業は社会貢献に
なる。

イベント
POPUP
オープンに
する

A) 投げる側も
労かる。

情報
キャッチ
Aランチ
コサの裏側
関係者に
はなします

少しでも出せば
キャッチされる。とも
投げてもらえる。

あるところには
あるな

フットワークが
かるい

重箱、イベント時
フドロスが
ある。

↓
大まか企業との
つながりづくり

寄贈したあと
どうなつたか見ると
社会貢献したなと
思える

会場小グループ
発表

地域でも
声を拾える
ように。

本たちは
声あげづらい

民生類

地域の人

きけるおな
環境ができて

広報 → 受けたあとの報告
現状をきちんと
伝える

対象 7,500
4,000名
どう届ける?

実績・流れの
みえる化 数字を
しつみする

供給量が
どうだろう?と
気軽にゆめと

ジモティーの
ようにアプリ化
できるとよい。
なかなか...

何が
できるか

自立支援として
継続してチームで
何ができるか

それぞれ考える
支援士担当者
もふくめて

一分一秒長い日
すでに & できていること
話すし知らないこともたくさん
あつた

今後
どうするめると
いいか?

ここにいたら
ごはんがある
いつもここから
話せる大人がいる
⇒今はどこにいる?

ま、かけ、(どうは
食料 + 洗濯 +
家庭の負担を
みんなが肩がかりする
アツク)

■今後のアプローチの方向性

- 1) 食支援は困窮世帯の自立支援の一環としてあるもの。地域に暮らすひとりひとりがステークホルダーとしてつながり、困窮世帯の現状やニーズ、フードバンクセンターの取り組みについて、地域で暮らす人々が知ることが重要。そのために福祉の専門職、自治会などの垣根を超えて地域に住む人々を対象にした広報・啓発活動に力を注いでいく必要がある。
- 2) 継続的な食支援に必要な安定的な食料確保のために、食支援は自立（食支援が必要ない状態を）を目指すものであり、誰にどれくらい届いたか、どのように自立に繋がったか、利用者に負担を強くない方法で、繋ぎ手、支援者などから寄付をする側に1対1のコミュニケーションをとり、寄付文化を浸透させていくことが必要。

■参加者によるサブセッション

困窮世帯の自立支援のための食支援を目指した、 寄付者・企業・市民・行政・つなぎ手の参画の仕組みについて考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

~感想~

- ・ 1 つだけの支援ではなく包括的な支援が必要
- ・ 連携が求められる
- ・ 支援したい市民がどのように関わっていいのか
- ・ 自治会に入っていない保護者にどのように情報を届けるか
- ・ 子どもたちは学校でガマンして居場所で発散している
- ・ 食は生死に関わるから社会で解決していく問題
- ・ 寄付の中に外国産があると利用者に抵当がある
- ・ 寄付の量が減っている
- ・ 地域住民が社協の存在を知らない
- ・ 利用者側の自立につながる支援をしないと永続的な支援になってしまう
- ・ 利用者に関わりを深めすぎると拒否反応がでてこなくなってしまうケースもある
- ・ 声をあげにくい保護者が多いが子どもから関係を築いて声をききとる

②

- ①受け取ったがわの可しか、いかにこうけんしているか
- ②キョリ間→渡すがわと受け取るがわの社会貢献度
- ③企業とのつながり

③

- ・ 大口の企業寄付、センター運営の維持きびしい
- ・ CN ひつよう
- ・ 個別支援
- ・ 見守り用
- ・ 基金→必要 物品寄付
- ・ SDG s
- ・ 品質管理
- ・ 寄付の周知など
- ・ きっかけ→ファミマ 郵便局
- ・ フードバンク
- ・ フードドライブ
支援者にとって→好まないものある
- ・ ルールづくり
- ・ ポスターを分かりやすく、応援したくなるよ
うな
- ・ ポスター→周知
- ・ 中部、基地からの寄付もあり
口に合わない

④

- ①人件費 5~600万 週3日 AM・PM
職員常駐
→職員のスキルアップ・処遇改善
- ②保健所の許可がおりなければカットできない (パパイヤ・トウガン)
冷凍・冷蔵
- ③反響：世帯ごとで困っている
- ④企業からのキフ：米など (送料)
事業を持つと自主財源・・・?
- ⑤キフに頼る環境にギモン

⑤

- ・ 届いていない現実… (情報)
→社協、発信へタ…?
- ・ 福祉関係者は社協のサービス使っている。
…でも福祉以外は??
→対個人とどうつながる?
まずは活動を知ってもらうの大事!
- ・ 企業の社会貢献
→情報を知らないことが多い
(社長が直接市とつながり、支援団体につながった…その後は直接支援団体へ)
- ・ 食ロスが少なくなっている状況…。
- ・ 寄付の窓口がいろいろある…。
資金があると活動が充実する?
(県のこども関係の窓口など?)

⑥

- ・ 情報を流す CM (場所の)
- ・ テロップをつける
- ・ 寄付までのステップ
- ・ 寄付の文化を日本でどう根付かせるか
- ・ 何で知らないんだろう?
- ・ 一般の人にも来れるものとへいせつする
→目につく場所にあってもいいかも
ポップアップでイベント的に
- ・ まず何をしたら?というのがイメージできない
- ・ とんりの家すら知らない
- ・ 情報がたりない⇔双方
- ・ SNS等メディアの方がいいのかも?

⑦

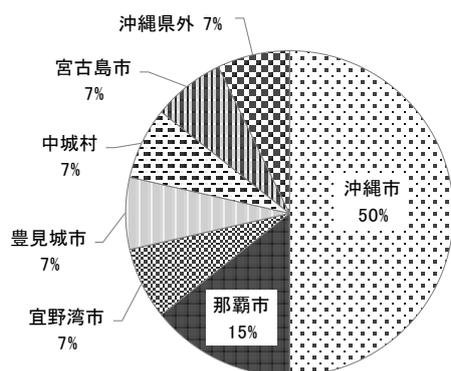
フードがある場所にはある
しかし、困っている世帯もたくさんある
両者のつながり不足
個人情報扱い

沖縄市における自立支援のゴールを目指した 食支援について考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

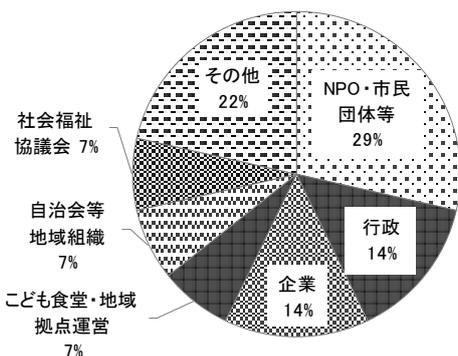
◆概要

- ・日時：2024年12月5日（木）15:00 - 17:30
- ・場所：沖縄市社会福祉センター 2階ホール
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：29名（行政、NPO・市民団体等、企業等）
（アンケート回収14名、回収率48%）

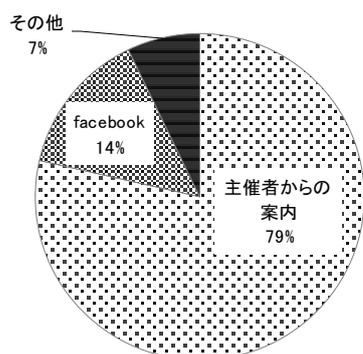
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.8（5点中）

満足度	人数
5. 満足	10名
4. 概ね満足	3名
3. 普通	0名
2. あまり満足していない	0名
1. 不満足	0名
未記入	1名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 支援側と直接現状を伝えることができた。
- ・ くじら寺子屋さんなど、現場の方の活動内容を知ることができた。
行政や支援団体を様々な立場の方から課題を話し合うことで理解が深まった。
各着席者より現場の現状や課題を深く知れて良かったです。・支援者の食ニーズを把握できていないまま食支援をしていることもあると分かった。持続的な食支援を行うためにも各ステークホルダーの協力作りの構築が必要だと分かった。
- ・ 食支援についての現状を、新聞やTVなどで得られる情報より多くリアルに知ることができ、課題について考えるキッカケとなり、学びとなりました。センターメンバーの様々な立場からの意見が、支援される側の声も反映している部分もあり食支援のみの円卓会議ではないスケールの話だと感じました。
（包括支援）
- ・ 企業とのつながりの重要性を再認識できた。企業が取り組んでいることを知ることができた。
- ・ 色々な気づきがあった。
- ・ 事業運営の悩みの共有ができた。同じ悩みを事業所として持っている。

- ・ 善意が集った会でした。
- ・ フードバンク事業の運営について社協だけではなく企業や行政、市民、さまざまな視点から考えることが出来た。

(4. 概ね満足)

- ・ プログラムがしっかりしており、課題と解決策、アイデアが短時間で抽出する事ができたのではないのでしょうか！
- ・ もうちょっと深めたかった。地域やステークホルダーのつながりも大事ですが、本来の役割を考えてフードバンク続けるかどうかもう一回ねるとか。
- ・ 現状を聞いたのはよかった。「自立支援のための」が少しよくわからなかった。

(満足度未記入)

- ・ 多くの困窮世帯を見守ってきた中で、自立に向けた支援の一部である「食問題」について興味があるため。維持費、運営費、人件費の問題。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 情報が伝わっていない
- ・ フードバンクセンターが支援相談の窓口になっているという別の役割についても驚きました。困っていても、言えない環境の方々にとってはちょっとしたキッカケも大切だと気づかされました。グループワークで、実際にフードバンクを利用している方より、自主財源の確保が本当に難しいという声がありました。大きい企業の支援は必須という意見もありましたが、地域の企業の広告宣伝費を徴収して収入にしたり、フードバンクの自主事業を行って財源の確保を試みたりそういった努力は必要かと考えました。
- ・ 食料のマッチングアプリ（内間さん）
くじら寺子屋の山下さんが同じようなことをしたいという人に団体設立支援活動をされていること

- ・ 想像しているよりも助けたいと考えている企業に身近な企業が多い。食料支援のマッチングアプリ、対象者を含めた問題解決チーム。
- ・ 情報の重要性と同時に直接コンタクト、いつもそこに居てささえる、つながる重要性。
- ・ 幾らくらいだったら払うことができるか？という問いに千円位ならということで輸送費の一部にあてられる。
マッチングアプリ等の開発
- ・ フードバンク事業をアプリ化する
支援される側の人も参加してもらうという意味で少額有料化する
当事者も含めてチームを作る
いつもそこにいる大人の存在
- ・ 企業のコマーシャル（タイム）を提供してもらおう。
- ・ フードのマッチングアプリ
企業協力
受け取り側を可視化する
- ・ 3分の1が相対的…といっているが、今日のグループではそんな人を見たことがない、ということで深めた方は少し違った方向になったような気もしてちょこっともやもやしていました。
- ・ 寄贈されるフードの数、ストックされているフードの数、困窮世帯の数、子ども貧困の数、それぞれのアンバランス感→いかにマッチングがうまくいってないのか…？成功体験の話をしきくと、フットワークの軽さ、発想の豊かさ…情報発信、アフターフォロー。

7. 会議運営についてのご意見・感想等

- ・ 様々な立場からの意見がきくことができよかったです。
- ・ 定期開催し、社会課題に立ち向かうチームをいっぱい作れる流れを作れるといいな。
- ・ 意見ではなくアイデアですが、献血者のように企業訪問して食料を集めてもよろしいのでは。

- ・ 板書の方がすばらしかったです。安谷屋さんの進行も good です。
- ・ 公的機関、各団体、行政、企業そして、マスコミ（アナウンサー）市民の一人との声は、あたり前の声だった。自立の指標は？どこまでを支援の対象としていくか、ゴールは。
- ・ 次のステップに期待しています。チームづくり等…
- ・ 会場の作り方がざんしん→参加者が本気で考える空気感が良い！

(写真) 会場の様子



~感想~

- ・ 1つだけの支援ではなく包括的な支援が必要
- ・ 連携が求められる
- ・ 支援したい市民がどのように関わっていけるのか
- ・ 自治会に入っていない保護者にどのように情報を届けるか
- ・ 子どもたちは学校でガマンして居場所を発散している
- ・ 食は生死に関わるから社会で解決していく問題

寄付の中に外国産があると

利用者に拒否がある

- ・ 寄付の量が減っている
- ・ 地域^{意識}住民が社協の存在を知らない
- ・ 利用者側の自立につながる支援をしないと永続的な支援になってしまう
- ・ ~~天~~利用者との関わりを深めすぎると拒否反応が出て来なくなってしまうケースもある
- ・ 声を上げにくい保護者が多いが子どもから関係を築いて声をきかせる

① 受取の仕組みの可視化、いかにこうけんしていか

↓

② 国^財≒4割 → 産^可がわと、受取^子がわの

③ 企業とのつながり

社会貢献^の進歩

• 届いていない現実... (情報)

↳ 社協発信へタ...?

• 福祉関係者は社協のサービス

使っている...でも福祉以外は??

↳ 対個人とどうつながる?

まずは活知を知ってもらう大事!

• 企業の社会貢献

↳ 情報を知らないことが多い

(社長が直接市とつながり、

支援団体につながった。-

...その後は直接支援団体へ。)

2.

• 食ロスが少なくなっている状況...

• 寄付の窓口が色々ある...

資金があると活知が危ない?

(果のごども関係の窓口はど?)

3.

- ・情報を流すCM (場所の)
- ・70-75%程度
- ・寄付でのスポンサー
- ・寄付の文化を日本にどう根付かせようか

- ・何で知らないんだらう?
- ・一般の人を来客と見るといってやる。
- 自らの場所には、それをいかに
ポッピングイベント的に
まず何をしたいか? というのがイキ。ヤ
できない
- ・となりの家から知らない
- ・情報をたりにいってスポンサー
- ・SNS等Xタイプの下がっているのか?

フードがある場所にはある
しかし、国に2いる世帯もたか2人ある。
両者のつながり不足。

個人情報への扱い